

ニホンジカ保護管理に関する課題について

平成 19 年度以降に行った評価委員会、部会及びワーキンググループでの意見をもとに、大台ヶ原自然再生推進計画の見直しに伴い検討が必要な事項について取りまとめた。

1. 個体数調整の現状

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）（計画期間：平成 19 年度～平成 23 年度）において、緊急対策地区におけるニホンジカの目標生息密度を早期（2～3 年）に 10 頭/km² に低減することを目指し、年間の目標捕獲頭数を平成 19 年度は 70～95 頭、平成 20 年は 95 頭に設定して個体数調整を行った。

その結果、平成 20 年度の糞粒法による生息密度調査の結果は、緊急対策地区で平均 19.3 頭/km²であり、平成 13 年度の調査以降最も低い値であったが、目標生息密度には達していない。

2. 課題

(1) 個体数調整の実施方法

平成 19 年度より装薬銃による捕獲を導入したほか、平成 20 年度からはシカが集中すると見られる夏期に、麻酔銃による捕獲を集中して行う措置をとっている。また、新規捕獲手法の開発のためにドロップネットやくくりわな等による捕獲を試みている。

(検討事項)

- ・既存手法の捕獲効率の向上
- ・新規捕獲手法（くくりわな、囲い柵、ドロップネット等）の検討
- ・効果的な誘引手法の開発
- ・安全性の確保、景観への配慮、捕獲個体の回収など、捕獲を行う上で問題となっている事項の検討

(2) モニタリングについて

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、植生状況調査や生息状況調査を行い、ニホンジカによる植生への影響やニホンジカの生息状況について毎年モニタリングを実施している。しかしながら、シカの移動経路や生息密度と植生の関係については、情報が不足している。また、モニタリング結果を踏まえた評価を行い、生息密度や捕獲頭数の目標値の設定に反映していくことが必要である。

(検討事項)

■モニタリング内容について

- ・防鹿柵設置によるシカの行動の変化の把握
- ・GPS による行動域調査の結果に基づくシカの季節移動経路の把握
- ・シカの生息密度と植生の変化の関係の把握（長期的課題）
- ・西大台の個体の食性の把握（長期的課題）

■モニタリング結果を踏まえた評価について

以下の項目について、評価手法の検討を行う。

- ・平成 19 年度以降の個体数調整が生息密度及び植生に与えた影響の検証
- ・最新の糞粒法による生息密度調査の結果に基づく目標捕獲頭数の設定の検討
- ・シカの生息密度と植生の関係に基づいた目標生息密度の検討（長期的課題）

(3) 周辺生息環境の整備について

健全なニホンジカ個体群の生息環境を維持するため、ニホンジカが冬期に移動している地域など、計画区域以外の生息環境の保全も重要である。平成 19 年度より、大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議を設置し関係機関の間で情報共有するとともに、連携のあり方の検討を行っている。

(検討事項)

- ・林野庁、関係自治体との連携による広域管理に関するあり方の検討